

千葉県感染症発生動向調査情報

2011年 第9週 (2/28-3/6) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		9週	8週	7週	6週
上段: 患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	4	4	3	4
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1
下段: 定点あたり患者数					

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	2/28-3/6	2/21-2/27	2/14-2/20	2/7-2/13	2/21-2/27
			9週	8週	7週	6週	8週
小児科	RSウイルス感染症		0	1	0	0	13
	咽頭結膜熱		1	1	4	2	35
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		42	46	31	22	349
	感染性胃腸炎		182	167	176	165	1,437
	水痘	○	36	29	26	10	232
	手足口病		1	6	1	4	16
	伝染性紅斑	↓	10	17	7	21	86
	突発性発しん		3	8	10	8	67
	百日咳		1	0	0	1	6
	ヘルパンギーナ		0	0	0	0	0
	流行性耳下腺炎		15	19	17	5	87
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	★○	480	407	386	516	3,090
眼科	急性出血性結膜炎		0	2	0	0	3
	流行性角結膜炎		0	2	0	0	18
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	3
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	1	0
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患(6件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	病原体遺伝子の検出	結核	男性	60歳代	放出インターフェロンγ 試験等
結核	男性	40歳代	放出インターフェロンγ 試験等	結核	男性	60歳代	画像診断等
結核	男性	60歳代	病原体遺伝子の検出	結核	女性	20歳代	病原体等の検出等

・結核6件(57)の報告があった。

()内は2011年累積件数

※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第9週のコメント

＜水痘＞前週より増加し2.00となった。過去5年間の同時期と比べると多め。

＜インフルエンザ＞前週より増加し17.14となった。警報継続基準値(10.0/定点)を越えている。

トピック

<水痘>

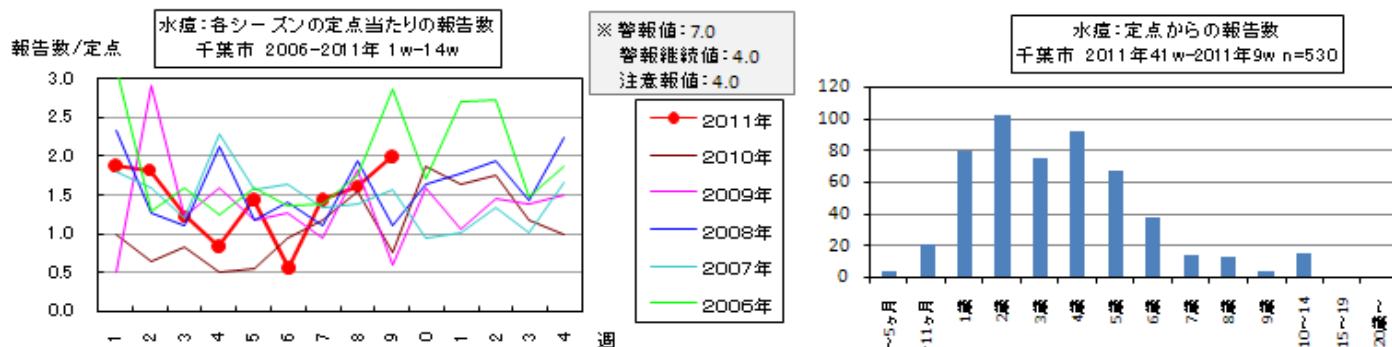
水痘は、水痘帯状疱疹ウイルスによって起こる急性の伝染性疾患です。

幼児期から学童期前半に多く、冬～春に流行し、夏～初秋には減少する傾向があります。多くが10歳までに感染し、殆どの成人は抗体を持っています。感染力は強く、家族内接触における発症率は80～90%となっています。

本症の潜伏期は10～21日（多くは2週間程度）で、軽い発熱、倦怠感、発疹が最初の症状です。発疹は紅斑から始まり、2～3日のうちに水疱、膿疱、痂皮の順に進行しますが、3～4日間程は発疹が新たに発生するため、これら各段階の発疹が同時に混在するのが特徴です。発疹の好発部位は体や顔面で四肢には少なく、体の中心寄りに分布します。発疹は掻痒感が強く、水疱中には多数のウイルスが存在します。合併症の危険性は年齢により異なり、健康な子供ではあまりみられません。1歳以下の乳幼児と15歳以上では高くなります。成人ではより重症になり、合併症の頻度も高くなります。また、妊婦が罹ると重症化の傾向があります。合併症として、皮膚の細菌感染、脱水、肺炎、中枢神経合併症などがあります。

2011年第8週現在、沖縄県(4.74)、宮崎県(4.72)、福岡県(3.26)の順で多くなっています。千葉市では、第9週は前週より増加し2.00となり、過去5年間の同時期と比べると多めとなっています。

予防にはワクチンが有効です。水痘ワクチンを接種しても水痘患者との接触によって6～12%の割合で水痘を発症する場合がありますが、発疹の数は少なく症状の程度も軽く済みます。また、水痘が流行している施設や家族内での予防については、患者との接触後できるだけ早く、少なくとも72時間以内に水痘ワクチンを緊急接種することにより、発症の防止、症状の軽症化が期待できます。



<インフルエンザ>

今シーズンは全国的に2011年第1週から増加が激しくなり、第4週にピークを迎えた後は減少していましたが、第8週は減少傾向がやや鈍っています。都道府県別に見ると第8週現在では愛知県、山口県、大分県の順に多くなっています。千葉県では第8週現在は全国平均レベルをやや上回っています。千葉市では、第4週にピークを迎え、その後減少していましたが、第8週から再び増加に転じ、第9週は前週より更に増加し17.14となりました。区別の発生状況では、中央区、緑区、若葉区の順で多く、いずれも流行発生警報継続基準値を上回ったままです。年齢階級別では、10～14歳の患者数の増加が目立ちます。また、型別迅速診断結果の報告によりますと、第9週はB型がA型を上回りました。

ワクチンは、接種してから効果が表れるまで2～3週間かかるとされていることから、早目の対策を心がけましょう。

予防として、家庭内のみならず、外出先においてもこまめに手を洗うなど基本的な予防の励行のほか、十分な栄養と睡眠をとるなど普段から免疫力を高めておくことも大事です。

また、感染した場合は、周囲へ感染を広げないよう、外出を控える他、マスクを着用する等の咳エチケットを守ることが重要です。

